

# 京都教区時報

小教区の貢一八幡カトリック教会  
特集一社会と共に歩む教会アンケート報告

第81号

発行所

京都市左京区仁王門通新高倉東入  
京都カトリック教理センター  
広報室(Tel: 1761-9095)  
編集責任者 村上透磨  
編集部 教理センター  
田中司教認可

教区ビジョンの宣言が、昨年十一月二十三日田中司教よりメッセージが出されて、はや九ヶ月を経過しようとしています。この実現のため、今年の一月二十四日にオ一回・六月二十七日にはオ二回の教区ビジョン推進準備会が開催されました。

それではどのようなことがビジョンの具体的な方法、やり方なのでしょうか。それらを考える前に、教区ビジョンがどのようなプロセスを経て実現されたのか、それは

三年前(教区ビジョンを作つては)で、越智師が述べておられるように「一部の聖職者、知識人によつて作られるものであつてはならない」を

遵守し、あなたの教会の一人一人の方を、そして司祭、修道会、諸活動の代表の方々が延べ八日間、三回の合宿によつて話しあい、考え、まとめて上げられたものを文章化したものなのです。

教区ビジョンは、私達が自ら創り出したもので、「信者として何をなすべきか、又社会の人々のために何が出来るの、あろうか」ということを考へる「手びき」なのです。

ビジョンの具体化の手法の基本的なパターンとして、P.D.C.Aの型(Plan計画、Doやってみる、Checkチェックする、Act行動する)で一つのテーマ、一つの問題を展開し、解釈していくことが大切だと思います。

信者として、日曜日のミサにあずかること、

## 私のビジョン具体化

又教会の諸行事に参加すること、これだけでよいのでしょうか、ミサや行事に参加出来ない、日曜日から土曜日までが社会の人々との出会いであり、神の恵みを分かちあうチャンスではないでしょうか。具体的な方法、それは私達の生活の中にキリストを見出だすことではないでしょうか。

ビジョンを構成する最も大切な項目は、自己刷新と社会との関わりです。そして、この中心課題は、教会の自己刷新です。オ一に社会の中での教会の自己刷新、即ち教会行事が単なる仲良しグループの域を出ていないのではないかでしょうか。又、教会の内部だけに留まらず、社会のいろいろな問題、出来事、社会の動きに敏感に対応しようとしているでしょか。社会の中に働いておられるキリストを見出し、教会という集いが、神の福音とともに接しながら、それに応じて自分を変えてしまふか。社会の中に働いておられるキリストを本当に信じる者として、自分を成長させる努力をしていますか。家庭、自分の職場が神の光榮をあげる場になっていますか、日常生活を福音の精神で磨き、徳をつかんでいくことにより自分の信仰を磨き、徳を生きぬくことにより自分の人生を磨き、徳を磨くことにより自分の人生を磨くことになりますか。そして、一人一人の人との出会いを大切にし、その中で働いておられる神を見つめようと努めているでしょうか。すべての活動のための祈りが何より大切であり、祈るために時間を作ろうと各自が努力しているでしょうか。

このような様々な、今後の具体的活動、そのプロセスがビジョンに沿つた信仰の「証し」になると思います。

岩崎 正(西大和)



### 教区短信

10月31日

伏見堅信

11月1日

諸聖人祭

11月2日

諸死者の日 (19日まで司

11月5日

ノートルダム女学院30周年  
祭生涯養生コース於鍾倉)

11月7日

ノートルダム女学院30周年  
祭生涯養生コース於鍾倉)

11月8日

司祭評定例会

11月15日

教区司祭月例会

10月6日

諸宗教委、神道研究会

10月10日

京都北信協運動会

10月11～15日

教区付司祭懇親会

10月17日

伊勢堅信 西陣75周年

10月20～27日

FABC総会III「アジア

10月21～27日

アの現状における信仰共同

体」タイ・バンコック

10月31日

河原町聖職者感謝のミサ

## 司祭修道士も一致を求めて



何をしているの?

### 司祭修道士夏期研修会――

8月24日～27日、伊豆大川の国労センターにおいて、教区内に働く司祭修道士43名が集まり研修会が行われた。

開始あたり、田中司教は、福音宣教を促進するには司教司祭はもとより、信徒の団体的(コレギアリティ)一致によって果たされるべきであり、それぞれの立場に応じ、共同責任をもって、協力していくねばならない事。目を広く世界に向かながら、現代社会、特に日本の風土においてどの様に福音を伝えていけばよいか、その努力と体验を話し合つてみたいと云つた趣旨の挨拶をした。

研修会の内容は、くつろぎと話し合いの調和をはかつたものであつたが、くつろぎの方の報告はさておき、話し合いの内容をここに報告したい。

この研修会に出された話題は、次の三つであった。

1 司祭の現状の問題。2 宗教修道会に対する邦人司祭の要望。3 同様に、邦人司祭への要望。これらの問題はあらかじめ各グループでアンケートを取り、そ

れを発表する形で始められた。こうして出された問題解決の糸口をつかむために、以下に記す様な研修会のまとめがなされこれを司祭評議会に提出して審議を仰ぐ事にした。従つて以下はあくまで研修会のまとめであることを御了解願いたい。

### 研修会まとめ

#### 「司祭修道士のコミュニケーション」

##### (1) 何故必要か。

まずコミュニケーションと言う言葉は、現代では主に情報交換の意味に使われているが、我々としては、より本来の意味即ち意志疎通、一致、交流といった意味に使いたいと思う。

我々の周りには緊密な一致なくして、のりこえられない問題が山積しているので、はなかろうか。より開かれた教区を作つていくためには、一致と交流、就中、司祭修道士間においてはぜひ必要である。

この研修会は、その一致と交流、互いの意思疎通を深めるための一端として行なわれた。この集いには種々の理由、例えば健康上、考え方の相違、仕事等の関係で参加出来なかつた人々も多かつたが、やむにやまれぬ事情はともかく、出来るだけ努力を払つて参加される様期待したい。

現在我々の中には、一致と交流を困難にする種々の問題点があり、その問題解決を表現するためには種々のむずかしさがあるにしても、あらゆる努力をして、コミュニケーションを大切にしたいと思う。我々がかかえている問題は種々あるが、例えは、

①司祭の老齢化に伴う種々の問題（それに伴う、例えば人員配置の再検討）

②信徒使徒職の養成問題（但しこれは、司祭の穴うめをするという事ではなく、信徒自身がもつてゐる役割から出る要請であるが：又召命の問題も含め考えよう）

③更に、司祭修道士相互関係、教区付司

祭、修道会、宣教会等の間に十分な意志疎通がまだまだ不十分であつた事から来る種々の誤解、協力の欠如等、種々の問題を引き起こしているのではないか？

司祭の穴うめをするという事ではなく、信徒自身がもつてゐる役割から出る要請であるが：又召命の問題も含め考えよう）

③更に、司祭修道士相互関係、教区付司

#### (2) 正月の懇親会の継続充実。

##### (I) ①教区付司祭月例会の開放。

工夫の可能性として例えば、

\*市内、近隣の宣教師の参加、又参加を希望される他グループの司祭への開放。

\*邦人司祭月例会を他地区で行なう。

②合同懇親会の可能性の探求。

③上記(I)の全般的集い以外、年幾度か教区レベルの集いが出来ればよい。

④個人レベルの交流を深める各自（各グループ）の努力。

その方法は種々あらうが、特に日曜日のミサの司式交替があげられた。

⑤一つの提案として、

自活的な共同生活の試み。但し第一段階として共同生活からはじめ、いつか共同司牧の方向も取る事も考える。

これらに関して一年間宿題として実現努力してみる。実現しているものは、なお充実へと努力し、実現されていな

いものは実現へ努力しよう。

追記／最後のまとめの集いにおいて、次の二つの事について関心を持つ人々の名

が、調べられた。

①日曜日のミサ司式の交替、大多数の司祭。

②共同生活をいづれ試みたいとする司祭

およそ30名中12名。

(3) コミュニケーションの具体化のためには、

(1) 全国カトリック障害者の種々の会の連絡協議会が去る7月17日・18日、河原町カトリック会館において、全国から集まつた約60名の参加者によって行われた。

本会の趣旨は次の通り。

「本協議会は、カトリック精神を認める病者、障害者が生けるキリストの共同体の一員として兄弟愛の実践を通じ、社会の福音化を目指す。そのための加盟団体をはじめ、教会社会との相互連絡・啓蒙等により、病者障害者等のあらゆる問題の解決のため働くことを目的とする。」

「本協議会は前条の趣旨にのっとり、下記の活動を行う」

(1) 病者障害者がもつ問題を、病者障害者の声として集め、それを教会内に反映させるための話し合いの場を持つ。

(2) 教会の諸設備、諸機構が誰にも開かれたものである様に働きかける。

(3) 社会と共に歩む教会の一員として、キリスト教精神に基づき、志を同じくする諸団体とも協力し、病者・障害者の福祉の向上に努力する。

(4) 福音の教えに基づいて苦しみのキリスト教えに基づいて苦しみのキリスト教え

全員はカトリック精神にもとづく病者・障害者等の団体及び本会の趣旨に賛同する個人をもつて構成する。

其他役員・運営委員・総会・会計等についての規定が述べられている。

終りに、この会発足に当たり、役員を選定して終了した。

この総会が、京都で行われた事は、ヴィジョンと相まって有意義な事と思われ、今後の発展を支援したいものである。

## 京都で発会式 カトリック障害者連絡協議会



ト教の意義を伝える。

(5) 機関紙を発行する。

(6) その他前条の目的を達成するために必要な活動を行う。

会員はカトリック精神にもとづく病者・障害者等の団体及び本会の趣旨に賛同する個人をもつて構成する。

其他役員・運営委員・総会・会計等についての規定が述べられている。

終りに、この会発足に当たり、役員を選定して終了した。

この総会が、京都で行われた事は、ヴィジョンと相まって有意義な事と思われ、今後の発展を支援したいものである。

## 彼らは私たちの希望 一神学生キャンプ一



教区の未来を担う4名の神学生と四国教区の神学生、志願者3名の合宿が、滝野、村上ト南師の参加のもとに、小豆島の福音化を目指す。そのための加盟団体をはじめ、教会社会との相互連絡・啓蒙等により、病者障害者等のあらゆる問題の解決のため働くことを目的とする。

「本協議会は前条の趣旨にのっとり、下記の活動を行う」

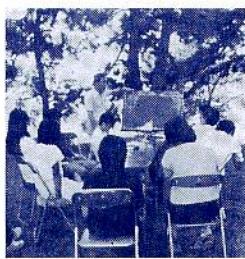
(1) 病者障害者がもつ問題を、病者障害者の声として集め、それを教会内に反映させるための話し合いの場を持つ。

(2) 教会の諸設備、諸機構が誰にも開かれたものである様に働きかける。

(3) 社会と共に歩む教会の一員として、キリスト教精神に基づき、志を同じくする諸団体とも協力し、病者・障害者の福祉の向上に努力する。

(4) 福音の教えに基づいて苦しみのキリスト教えに基づいて苦しみのキリスト教え

## 明日への若い力



滋賀県青少年夏期練成会

主催／滋賀県連合会

協力／県下教会学校教師会

総指導／マッコリー師

8月14日～17日、唐崎メリノールハウ

スにおいて滋賀県連合の青少年練成会が、行なわれた。参加者は小5～高3男女60名、

学習と生活指導を主眼としてカリキュラムが教師会によつて組まれた。

会期中の生活指導では、各学年混合のタテ割りのグループに分け、食事・話し合い・お手伝い・ゲーム等限られた時間と規則の中で礼儀正しく行う事を学ばせ

年齢別のヨコ割りグループの時間では、

それぞれ年令に応じた方法で、み言葉の

学習を行うといった内容で、参加した生

徒も先生も楽しく和気あいあいの中に過

ぎました。この研修会は更に県下五教区の婦人・青年の協力を仰ぎ、一致という点からも有意義なものになつたと思われる。

## 心のふれあいを求めて

南部高校生合宿



れ苦もなくやりとげました。被昇天の日は作業なしで交流会でした。島の方も私達もジユース片手に楽しく会話です。島の方のお話や歌が聞けて本当に良かったと思いました。自由時間には海岸まで貞取りにも行きました。でも一番心に残つたのは心のふれあいを作るために会う人全員に挨拶したことです。たつた一言で昔からの友達のような気になりました。

とにかく色々な面で勉強になりました。

絶対来年も行くぞ！

(主持直子)

聖体贊美と感謝の集い／於西陣教会

10月7日 PM 1：30～4：00 ミサと聖体行列

多くの参列をお待ちしています

8月13～17日昨年にひき続き長島愛生園へ行つてまいりました。テント生活に

自分で出来ないかと云う事を真剣に話し合つて、自分に目ざめてくれる様に何かお手

作業は2班に分れて、草刈りかベンキ

塗りでした。一日中そればかりやつて

いる訳ですが島の方々の差し入れに励まさ

ったおかげですばらしい出来具合でした。

作業は2班に分れて、草刈りかベンキ

塗りでした。一日中そればかりやつて

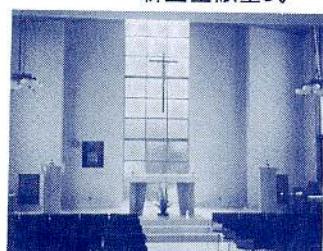
## 司教の足どり



19日	邦人司祭月例会。(桂)カリタス会 理事会。
20日	中央協機構検討委(大阪)
21日	神の園10周年・堅信ミサ。女子上智大夏期神学講座講演。
22日	M M代表と面談。
23日	田中宮司(マルチン病院)母、老司教見舞(M M代表と面談)マリスト司
24日	田中宮司(石清水八幡)喜寿、長老祝賀会参列。M師(中央協)
25日	M師(O M F)面談。CSV管区長、京都新聞記者と面談。
26日	ビション推進相談会宿(北白川)九条教会堅信ミサ。右継続。
27日	教区内管区長「断食と祈り」の終日(唐崎)河村氏と面接。SSN本部役員と。Srガブリエル誓願金祝ミサ(女子カルメル会)。G師R師面談。
28日	河原町ミサ。墓地委員会。
29日	河原町ミサ。墓地委員会。
30日	聖母、老司教見舞(M M代表と面談)イタリーQ社代表団とミサ面談。
31日	聖フライムンド。特に修女連有志ミサ・面談。
19日	邦人司祭月例会。(桂)カリタス会理事会。
20日	中央協機構検討委(大阪)
21日	神の園10周年・堅信ミサ。女子上智大夏期神学講座講演。
22日	M M代表と面談。
23日	田中宮司(マルチン病院)母、老司教見舞(M M代表と面談)マリスト司
24日	田中宮司(石清水八幡)喜寿、長老祝賀会参列。M師(中央協)
25日	M師(O M F)面談。CSV管区長、京都新聞記者と面談。
26日	ビション推進相談会宿(北白川)九条教会堅信ミサ。右継続。
27日	教区内管区長「断食と祈り」の終日(唐崎)河村氏と面接。SSN本部役員と。Srガブリエル誓願金祝ミサ(女子カルメル会)。G師R師面談。
28日	河原町ミサ。墓地委員会。
29日	河原町ミサ。墓地委員会。
30日	聖母、老司教見舞(M M代表と面談)イタリーQ社代表団とミサ面談。
31日	聖フライムンド。特に修女連有志ミサ・面談。

## 長岡教会

新聖堂献堂式



新住所 長岡京市天神2丁目3-26 TEL.939-8345

8月15日、長岡教会(小野十益師)新聖堂献堂式が盛大に行われた。この集会を終えた、マリスト会管区長ウイリックス師は「24時間、断食をして御聖体の本当の意味を理解する事が出来、又この断食と祈りを通して、教区のミサを捧げる事が出来たのは、本当にすばらしい事でした。飲み物だけに養われる様になるでしょう、又今後、機会があれば、共に又この運動にあづかりたいし、他の教区の方々も一諸にする事が出来れば、とてもすばらしい成果をおさめる事となるでしょう」と感激を述べられた。

18日(日)全国カトリック障害者連絡協議会発足総合ミサ。藤堂師埋骨式。

19日 光州大司教秘書、白柳大司教来訪。

20日 古屋司教見舞。

21日 南信協有志青年合宿(北白川)古屋司教見舞。

22日 小野イネ葬儀ミサ(津・小野師ご母堂)

23日 24~27日司祭修習研修会(伊豆国労教育センター)(諸宗教青年の集)

## 断食と祈りの一 日

田中司教と共に管区長会

去る6月28日、田中司教と七名の管区長(メリノール、ヴィアトール、マリストカランドレッド、ウイチャラヨゼフ会、メリノール女子、ノートルダム各管区長)が琵琶湖畔の「ノートルダム祈りの家」に集まり、教区の発展と修道会の為の祈りと断食の一日を過した。

プログラムは次の通り  
10時(AM) 11時30分、ミサの朗読と福音に  
11時30分~12時30分。個人の祈り  
12時30分~14時。ミサの共同祈願と奉獻

14時~15時。個人の祈り  
15時~16時30分。聖体祭儀  
16時30分解散

この集会を終えた、マリスト会管区長ウイリックス師は「24時間、断食をして御聖体の本当の意味を理解する事が出来、又この断食と祈りを通して、教区のミサを捧げる事が出来たのは、本当にすばらしい事でした。飲み物だけに養われる様になるでしょう、又今後、機会があれば、共に又この運動にあづかりたいし、他の教区の方々も一諸にする事が出来れば、とてもすばらしい成果をおさめる事となるでしょう」と感激を述べられた。

12日(日)中国宗教使節団來訪  
13日 司教協機構検討委

14日 古屋司教見舞。

15日(日)聖母被昇天祭、長岡新聖堂献堂ミサ。SSN終生誓願ミサ

16日 五山送り火。

17日 湯島天神、神田明神見学。

18日 CND来日50周年祭(調布市)

19日 司祭、修士研修会準備会。

20日 木才祈道共同体全国合宿(箕面)

21日 南信協有志青年合宿(北白川)

22日 古屋司教見舞。

23日 小野イネ葬儀ミサ(津・小野師ご母堂)

24日 光州大司教秘書、白柳大司教来訪。

25日 古屋司教見舞。

26日 古屋司教見舞。

27日 光州大司教秘書、白柳大司教来訪。

28日 衣笠墓地消防道路計画現地視察。

29日(日)フリーブルグ大学関係者30名とミサ・面談。

30日 多数ミサ参加。この間来客多数。

31日 ミサ・面談。

32日 同伴につき緊急墓地委。

33日 聖フライムンド。特に修女連有志

34日 多数ミサ参加。この間来客多数。

35日 ミサ・面談。

36日 ミサ・面談。

37日 ミサ・面談。

38日 ミサ・面談。

39日 ミサ・面談。

40日 ミサ・面談。

41日 ミサ・面談。

42日 ミサ・面談。

43日 ミサ・面談。

44日 ミサ・面談。

45日 ミサ・面談。

46日 ミサ・面談。

47日 ミサ・面談。

48日 ミサ・面談。





養護施設の子供たち訪問	窓ふき、掃除、除草、遊び	各学級別	ノートルダム学校
老人ホーム、身障者施設、その他への奉仕	募金、交流、掃除その他	年数回	年数回
手話学習	グループ・マリア会	毎週一回以上	毎週一回以上
車イスと仲間の会	中高生ボランティア会	昭和五一年四月	昭和五一年四月
特別養護老人ホーム	高校キリスト教同好会	年三回	年三回
教会内への部落問題の提起学習	中高生ボランティア会	月一回	月一回
部落問題理解のための小冊子作成	活動同好会	年三回	年三回
各小教区での拡大学習会	クラブ有志	十五年前	十五年前
地域職場で行動している	中学クラブ	昭和五二年九月	昭和五二年九月
在宅老人訪問。未信者家庭訪問	運営委員会	十年前	十年前
入院中の未信者訪問	発行。機関紙「てくてく」	月一回	月一回
夫婦共に病気の家庭への家事手伝い	A C O 、 J O C	年三十回	年三十回
働いている青年たちへの働きかけ	レジオ・マリエ	毎週	毎週
オモチャライブラリー。障害児の学童保育	" " "	月一回	月一回
「希望の家」の奉仕活動	ワークキャンプ。廃品回収	年二十四回	年二十四回
図書室の地域への開放	青年の自主的運営	学期に一回	学期に一回
スカウトの子供たちへの信仰教育	A C O 、 J O C	昭和五二年九月	昭和五二年九月
青少年の育成	レジオ・マリエ	十五年前	十五年前
家庭の祈り。働きながらの祈り	" " "	昭和五二年九月	昭和五二年九月
奉仕日を設けている	ワークキャンプ。廃品回収	昭和五二年九月	昭和五二年九月
婦人の奉仕日には整枝園、神の園へ	青年の自主的運営	運営報告、討議その他	運営報告、討議その他
身障者向きに便所改造等の改修計画	A C O 、 J O C	他に小冊子四冊も発行	他に小冊子四冊も発行
青少年の育成。将来、信徒使徒職に自発的に参加する人をつくるため、ジユニア・レジオをはじめとする計画中	レジオ・マリエ	運営報告、討議その他	運営報告、討議その他
献血をみなでやろうと計画している	" " "	京都・滋賀	京都・滋賀
人権デミサの企画、実行	京都・滋賀	カトリック正義と平和京都協議会	カトリック正義と平和京都協議会
「社会と共に歩む教会」という教区ビジョンが発表されてから、或る人は戸惑い或る人は励まされながら、それを取り組み始めている。その戸惑いは例え、社会とともに歩むとは一体どういう事なのか、何をしたらよいのかとまよふ人もいると思われる人も居よう。その中でたとえささやかであっても取組んでいる事	年一回	伏見教会	伏見教会
「社会と共に歩む教会」を人に知らせる事によって、具体的な実践のヒントを得る事になろうかと思い、アンケートをお願いしたところ、かなりの返答をいただき感謝している。	年一回	滋賀 J O C	滋賀 J O C
このアンケートの報告書の利用の仕方によつては、思わずばらしい効果を生み出すものと期待している。尚具体的な内容について、また時報でも取り上げていきたいと思うが、独自にその教会なり、(行進、署名等)又目的のわからないもの	年一回	京都コミュウム	京都コミュウム
「社会と共に歩む教会」を紙面の都合上割愛した事を御了承願いたい。	高野教会	カトリック正義と平和京都協議会	カトリック正義と平和京都協議会
尚、報告いたいたものを今回全部、記載出来なかつた事をおゆるし願いたい。	小山教会	カトリック正義と平和京都協議会	カトリック正義と平和京都協議会
尚又、アンケートは今後とも続けたく思つて、まだ送つて下さつていないので、からどしどし報告下さる事を期待している。	桃山教会	カトリック正義と平和京都協議会	カトリック正義と平和京都協議会
こうして少しでもビジョン実現に本音について、また時報でも取り上げていきたいと思うが、独自にその教会なり、(行進、署名等)又目的のわからないもの	福知山教会	カトリック正義と平和京都協議会	カトリック正義と平和京都協議会

## おしらせ

## ◆11月3日第4回ウォーカーラン

多數の方々の参加と御協力を乞う要領は昨年と同じ。案内を近日中に各教会、各方面に送ります。今回の目的は、フィリピンの無医村に「はりと指圧師」を養成するため二人を招く費用にある。

フィリピンではこれが最も手近かで有効な医療対策の様である。アジアに開かれた教会の一環として御協力を!

## ◆お祈り下さい。

ノートルダム修道女会は、第17回総会が、9月28日より二ヶ月間、ローマで行われる。西ドイツ・パリアード、イエズスのマリア修女によって創立されより150年、特に教育を通じ、神の国発展のため尽力し、今32ヶ国に八千名余りの会員が働いている。時の要請に応えるために開かれるこの総会が有意義に行われる様、祈りの支えを願つてある。

## ◆「社会とともに歩む教会」勉強会

10月10日(日)「開発のディレクター」  
11月14日(日)「難民・流民」

いづれも 講師／安藤 勇師

(イエズス会社会司牧センター)

講師／河原町カトリック会館ホール  
場所／河原町カトリック会館ホール  
時間／PM 1時～4時

◆信徒使徒職養成コース

○基礎コース

日時／10月8日(金) PM 3時より  
10月11日(月) PM 4時まで

場所／宮津市橋立莊  
会費／一万五千円

\*問合せ先／京都カトリック教理センター  
(11月に宇治カトリック会館で開講予定)  
の趣成コースは中止になりました

◆カセットコピアー設置

教区で購入されたカセットコピアードを教理センターで保管している。御利用下さい。当センターでは教区時報・司教書などのカセット版も用意している。

◆聖書週間プログラム

○書道作品募集

1趣旨／聖書を生活の中に入れてゆく。  
2出品資格／児童の部・幼児・中学生

3出品要領／成人の部・高校生以上  
出品点数／1人2点まで

書体・大きさ／自由  
「表装ナシ」

内容／聖書のみことばから  
出品料／1点に付2百円

4出品〆切／昭和57年10月31日限  
5送り先／京都カトリック教理センター

◆聖書朗読コンテスト

1趣旨／聖書に親しむ。典礼の中で聖書  
を正しく読む

2応募資格／中学生以下／15名  
高校生以上／15名

3朗読箇所／参加者が随意に選ぶ  
2分以内

4申込〆切／10月31日、教理センター宛  
5日時／11月14日(日) AM 10時～12時  
6所／京都カトリック会館6階ホール

## ◆講演会

講師／山本七平氏  
テーマ／聖書の背景になつた風土

日時／11月14日(日) PM 6時～8時30分  
場所／京都カトリック会館6階  
入場無料

## ◆ノートルダム女学院奨学金

創立者マサード・テレサ・  
ケルハルディング奨学金

## ◆応募資格／

1、京都教区のカトリック信者で、来年度ノートルダム女学院高校で学ぶ人。  
2、経済的事情のある人。

## ◆応募期限／11月20日

## ◆問い合わせ先／

〒606 京都市左京区鹿ヶ谷桜谷町1  
ノートルダム教育修道女会

本部 ☎ 075-751-8455

## ◆祝金祭 ヌヴェール愛徳修道会

9月25日三名のシスターの金祝が行われた。  
Sr.テレーズ百岡  
Sr.ペラナデタ・小野

## ◆帰天 マリアマグダレナ小野いね(78才)

34年前夫君に先立たれ以後三男一女を一人は司祭に、他の子供達を教会の中核で働く信徒として立派に育てあげられたが、

## ◆小冊子発売

「身代りとなつて」

現代の聖者、マキシミリアンコルベ

YB U本部

## 9月19日 カトリックボーリスカウトの

日於大津皇子山、約800名参加のもと行われた。

## 8月24日～26日

第七回全国青年部有志の集い、北白川教会

宮、参加者約40名、木村・大塚両神学

## 生出席

南信協青年部有志の集い、北白川教会

8月26日、第一回調査隊が、西陣教会を

をぶりだしに、三条・伏見・桃山教会を経由して中書島までの道程を踏破。第二回は中書島より枚方教会への道を歩く予定。この巡礼の道は六甲学院教諭本田氏の発案によるもので、日本人の心にひそむ、行としての88ヶ所巡礼をキリスト教的な精神と合わせて「長崎の道」を開拓しようとするものである。

## ◆小冊子発売

胃癌性腹膜炎のため8月21日逝去、23日

1時、田中司教、令息小野師をはじめ十

数名の共同司式のもと盛大に葬儀ミサが

行われた。御冥福をお祈りしたい。



(小野十益師 母堂)

製菓材料・舶来食品  
和洋酒・修道院製クッキー  
ミサ用ブドー酒

タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通烏丸東入  
電話 (221) 0976-7

# 感謝の典

## 日曜典礼の実践

— 津 —

津聖心教会の新聖堂建設の一環階として、私達はテープを聞いたり本を読んだり、そして専門家の意見を聞いたり典礼学を復習しました。その結果、新しいお聖堂に移る前に、少しずつ新しい典礼の方針に従って日曜日の典礼を改善する事になりました。それは第二バチカン公会議後、一度に沢山の真新しい事が急に導入されました。しかし、結局受け入れる体制ができていなかつたため、多くの方が余りにも突然な変化で動搖してしまいました。

と云つても私達が目指している改善はさ程画期的なものではないはずです。簡単に言いますと私達の主な目的はタームとスペースを以つて典礼をより分りやすくし、参加しやすいものにする事なのです。参考しやすくするとは只皆さんにもっと歌わせたり、動かせたりすると言ふのではなく、本当に心からいて行くように手やわらかに導く事です。

先ずスペースについてはその動作によつて場所が違うはずです。洗礼のための場所、死者のために祈る場所などがそれぞれ違うはずです。御ミサのそれぞれの部分もスペースを使う事によってはつきり分れるのです。たとえばミサのために三つの場所があります。司祭の椅子、朗讀の台、そして祭壇があります。奉獻文

に入るまでは祭壇に近かずかない事によって、その一部分の独特的意味をはつきりするのです。同様にして朗讀台は、御言葉の祭儀だけに使われる事になっています。

従つて直接に御言葉に關係のないお知らせは別なところで行われます。また同じようにこの三つのアクションをはつきりするために奉仕者も交代して出ます。聖書朗讀奉仕者は入場の行列にくわわります。そして御言葉の祭儀が終ると席へ帰つて家族の方と一緒に坐つて後の部分に

与ります。奉獻の祭儀の間、祭壇に居るのは司祭と侍者だけです。交わりの儀に入ると同時に特別聖体奉仕者が出ます。聖体奉仕者は只御聖体を受ける信者が大変多いので、司祭が助けてもらわなければならぬ場合だけ出るではなく、つつの信徒使徒職の努めを果していいる訳です。

また特別な服装を着る訳でもないのです。(司祭の居ない御言葉の祭儀と聖体拌領式は別ですが)奉仕者はミニ司祭として出るのではないのです。一般的信徒としての特別な努力を果していいる訳です。

一人のおじいさんは、毎週のミサの準備として聖書と典礼を手に入れて御自分で読みやすいように丁寧に大きな字で書いて置きます。それほど準備された朗讀

国鉄草津線、貴生川駅近くの甲南ニユータウンの中に、献堂式から一年をすぎた甲賀教会があります。日曜日には地元の甲南町、近隣の水口、信楽、甲賀などから約10家族が集まり、草津教会から司祭を迎えてミサが行なわれます。

私達の典礼の特徴は、家庭ミサの時代からの伝統である「みことばの分ち合い」です。ミサ中の聖書の朗讀の後、司祭も含めてその日の聖書を読んでの思いを皆で出し合います。和室に坐つてのミサだけに、心を開いて話し合いかができるよう

## 新しい共同体づくりを求めて

甲賀教会



のまま残り、大人は要理や聖書の勉強会、子供は別室で日曜学校を行ないます。これららの集まりも、まだまだ検討が必要とすることがあります。小人数の利点を生かした工夫が重ねられることであります。毎月第四日曜日には近くのベトナム難民キャンプから約50人の信者さんが、甲賀教会に来られ、ミサが行なわれます。このための準備や後片付けも私達の重要な仕事です。皆さんとは少しすつ頬なじみになり、笑顔で挨拶を交すことができるようになりました。

草津教会の小教区は広く、野洲、近江八幡でもミサが行なわれ、特に日曜日に草津教会の行事がある場合など、甲賀教會に司祭に来ていただけない事もあります。(ジヤクソン)

のための準備や後片付けも私達の重要な仕事です。皆さんとは少しすつ頬なじみになり、笑顔で挨拶を交すことができるようになりました。

まだ生れたばかりの教会ですが、着実な歩みをはじめました。私達は初代教会の人々のように「思いと心を一つにして」(使徒行録2・46)共同体をつくっていく心がまえています。

(M記)

## 京都教区時報

八幡教会は、現在田辺小教区の巡回教会です。創立は一九五〇年で、メリノール宣教会のスタイル・バック神父は、三条教会に籍を置いていました。が、ある時、移動診療班として八幡に出掛け、そこで一人の子供がその医療のお陰で命が助かり、家族は感謝のうえ、教会のみ教えをきくことになりました。その後、洗礼にみちびかれ信者となり、その時から毎週一回、その家でミサがたてられるようになりました。

その後、青谷教会が創立され、そこを巡回教会として出発。一九五一年から一九五五年まで伏見教会の巡回となりましたが、聖堂はなく、信者の家を借りていきました。青谷教会が創立され、そこを巡回教会として出発。一九五一年から一九五五年まで伏見教会の巡回となりましたが、聖堂はなく、信者の家を借りていきました。青谷教会が創立され、そこを巡回教会として出発。一九五一年から一九五五年まで伏見教会の巡回となりましたが、聖堂はなく、信者の家を借りていきました。



## 巡回教会の あり方

エグルストン神父に渡されました。当時、大工さんの倉庫だったところを買収して聖堂風に改造し、小聖堂を作りました。その後10年間宇治教会の巡回をして歩みました。一九六六年桃山小教区の創立に伴い、その時から10年間、桃山教会の巡回教会として存続しました。一九七六年、現田辺教会の巡回教会となり、二年程前、二十五周年記念を期に一部改築され、聖堂も少し広くなつて、昨秋とこの二月には結婚式もあり、昔の大工小屋は、かわいい美しい聖堂になりました。歴史は歩みづけます。世の光、地の塩、一粒の麦となつて。

主任司祭/R・ヒューズ神父

神父と婦人会のメンバーで、今もその連

## 中小教区の貢中 八幡カトリック教会



一日の仕事を終えて帰路につく。京阪電車で八幡を目指す。宇治川と木津川の二つの鉄橋を渡ると目の前に男山がくろぐろと感じられ、その周囲に小さな灯りが点在する。その中には白く浮き上がる十字架と案内板の明りがみえる。ホッとため息が出る。八幡教会がここにある。

鉄橋の手前の町、淀と石清水八幡宮をま近に見上げる八幡市と、男山の大坂寄りに切り開かれた住宅公園、男山団地、これが八幡教会の小教区である。

きつねの伝説がある「くずはの里は、くずはローラー・タウンとして大阪、枚方市に属し、隣接する八幡市と共に、京阪地域の一大ベッドタウンとして、急速に開けた新興都市で、八幡人口約六万余り、その五十%が流入家庭である。

献堂以来の巡回教会の位置は今もかわりはないが、桃山教会所属の後半と田辺教会所属の近年六一七年に急速に成長した教会である。

その原動力は主任司祭、R・ヒューズ神父と婦人会のメンバーで、今もその連携プレーはよく發揮されている。

巡回教会であるがゆえに、近年、とみに自主、自活の行動が求められ、信徒は強く、たくましく、育つて来たようだ。

司祭は日曜日の一時間余りと平日の少しを八幡のために使つておられるが、このわずかの時間を非常にうまく消化している。日曜日の朝は、信徒達の顔を一人ひとり見、子供の頭をなで、告解をききミサをたてる。ミサを終ると、信徒会・リーダーの報告をきき、指示を与え、

のみえない信徒の消息をきき、宿題をのこしてあわただしく田辺に向けて出発する。これからが信徒の時間である。

お茶をのみながら歓談のひとときは、一週間の行動のエネルギーとなる。

典礼聖歌を練習するグループ。中高生に聖書研究をするグループ。雑貨品を売るグループ。古紙ボロ布を回収にゆくグループ。毎月第一日曜日の全員奉仕日以外にも毎週何かが行動している。この中には司祭もシスターも伝道婦もいないが、全ての人が、司祭の意をうけて行動している。信徒の一人ひとりが魅力ある教会造りを目指して、自らの行動を通して他を動かしめている姿である。

これらの行動の基本は、自己の刷新と開かれた教会、家である教会でありである。

家族単位の信者造りが、実を結びつつあ

り、お父さんの洗礼が数組続いたのも成りの一つである。

クリスマス行事の、もちつき大会も、元旦に行う新年会も、未信者である、お父さんや、求道者をまき込んだ盛大な、催し物の一つである。もちつき大会ではカマドの番や、つき役・とり役を進んで引受けられるし、子供達は、うさぎのもちつきよろしく五本余りのキネをつく。

新年会では、おせち料理を持ちより、老若男女一つになって、一年一回の無札講の酒宴をくりひろげる。楽しい共感の輪の中にいるよろこびがある。

しかし楽しい事にうかればかりはない。特に今年は司祭の要望は厳しい。新年会では、おせち料理を持ちより、老若男女一つになって、一年一回の無札講の酒宴をくりひろげる。楽しい共感の輪の中にいるよろこびがある。

「キリストのみ教えを家庭でおききになりたいと思いませんか」というアピールを印刷したYBUDU「心のともしび」の配布活動を始めた。信者の家庭や、求道者の家庭で、その方と一緒に要理の研究をする方法である。教会発展の基である求道者を積極的に求める事。この事が今、我々に求められる、開かれた教会造りであり、社会と共に歩む教会の実践のために、すべての人に呼びかけ、対話の機会をつくる事で、小さな単位でも出来ることと思っている。今、司祭はハングリーノの精神でうち向つておられる。私達の小さな集団も、この要請にこなえて、今少しづづ歩んでいる。一人の力ではなく、皆んなの連携の手をつなぎながら。

(文責/信徒会 石井脩三)



## 生活の見直しから

### 1 Sさんの家庭のでき事。

Sさんの家庭は5人家族です。ご主人（38才）、奥さん（36才）、男の子（3才）、女の子（1才）そしておばあちゃん（63才）。

ご主人の仕事は染物の職人。奥さんは育児、家事に専念。ある日、ご主人は古本屋さんから“有

**寝言**というのを放映されて久しいが、この「小さな家」、そこには眞理の愛（人を幸せにする）がある。ようと思ふ。決して豊かとは言えない生活中で、隣人へのやさしさ、慈しみ深い愛の関わりがある。

## 大草原の小さな家に 教えられるもの

苦しんでいる人、貧しい人、人、困っている人、苦しんでいる人、貧しい人、

小さい人々に、施しではなく、その人たちが如何にすれば「幸せ」になれるかということを考えている。世話ををするだけではなく、心が与えられており、そこには「勇気ある隣人への愛」。キリストのみ旨が生きているように感ぜられる。

害食品一覧表」という單行本を買ってきました。奥さんもご主人も、生協（＝生活協同組合以下生協という）に加入して活発に動いてる友人（婦人）から、食物の中に、からだに有害な添加物が入っていることをかいぶ以前から聞いていました。またパンフレットなどを通して、それなりの知識は得ていました。しかし、もうひとりの知識は得ていませんでした。しかし、もうひとつ自分の事としてビンと来なかつたようです。

最近、Sさん夫婦は子供のことについてよく考えておられました。今度3才の男の子が幼稚園へ入ります。子供のことで考えることは沢山あるわけですが、食物についても段々関心が高まつてきました。

私たちの回りを考えても、二昔前までは、このような暖かい心のつながりがあつて、お互いが助け合ってきたはずである。だが、今日ではどうであろう。もちろん心を開いて隣人と関わっている人も沢山おられる。しかし、多くは自分

で慣れ親しなだ調味料を使わないと決心しました。味は少しまずくなるけれど、家族、とりわけ育ち盛りの子供たちに有害なものを口にすることはない！

奥さんは最近さらに食物について関心を深めています。日本消費者連盟という消費者団体から「消費者レポート」

子供を健康に育てる考えると食物の見直しも迫られます。

奥さんはご主人の買ってきた本の中で、毎日使っていた人工調味料の中に有害な化学成分が含まれていることを知りました。

奥さんはこのことを知ってから、今まで慣れていた調味料を使わないことを含めていることを知りました。

奥さんはこのことを知ったから、今まで慣れていた調味料を使わないことを決心しました。味は少しまずくなるけれど、家族、とりわけ育ち盛りの子供たちの健康を考えると一お金を使って、からだに有害なものを口にすることはない！

奥さんは最近さらに食物について関心を深めています。日本消費者連盟という消費者団体から「消費者レポート」

を取り寄せて勉強を始めています。より安く、安全な食物を求めて時々、多くの生協店へご主人の運転で買い物に行きます。

奥さんは近所の奥さん方にもできるだけ自分が知ったことを伝えたいと考えています。

奥さんは仲間たちと共に次のよいまじめます。

### 2 みなさん、このでき事の中からどんな福音を見出せますか？

私は仲間たちと共に次のよいまじめます。

#### (1) 人間にとつて「良い事」を伝えてくれた友人がいる。

（2）Sさんは始めそのことがよく理解できなかったが、子供を、家族を大切にすることから段々理解できるようになつてきた。

（3）夫婦が一諸になつてよく考えられてゐる。

（4）夫婦が「良い事」が判つた。すぐ実行していいる。生活を変えることを実行した。

（5）自分たちが得た「良い事」を他の人々にも伝えたいと希望をもつてゐる。

（6）消費者に「良い知らせ」を伝える団体があること。団体との出会い。

（7）自己の育児・家事に閉じこもることなく自分の生活から出発しながら外に関心が向きつつある。ここに新たな出会いの可能性がある。

（K）祈り求めることが、小さな平和へとつながっていくのではなかろうか。

（マテオ二五）

ネバールで十八年間、医療奉仕された、元日本キリスト教海外医療協力会、派遣医、岩村昇先生は、「せっかく古切手を集め、B・C・Gを送つていただいても、子供の体に蛋白質が足りない為に抵抗力が出来ず、結核で亡くなつてしまつた人が少なくない」とネバールの現状を報告、農村開発の必要性を力説され、特に青年の参加を呼びかけられた。それは、四年前に京都で行われた、宗教者の奉仕セミナーの席上であつた。

当時、西陣市民センターの館長で、そこのセミナーの組織者の真下牧師(現在、日本キリスト教団、上鳥羽教会)

は、早々に、岩村先生のアビールを受け、ネバールと京都の青年の為に、教団、京都教区の主催で、ネバールワークキャンプを組織された。

当時、ボランティアスタッフとして西陣市民センターで働いていた私は、約半年間の準備の後、翌年、一九七九年の二月から一ヶ月間行われたワークキャンプに、そして、その後行われている、毎年一回のキャンプに、二度、三度、続けて参加する機会に恵まれた。

#### ◆チトワン農村総合開発計画

その農村開発がなされる所は、チトワンと呼ばれ、カトマンズから、南北方向へ一四〇キロ程行ったタライと呼ばれる大平野の一角に位置している。そのチトワンのグンジュナカール村に篤農家から借りた土地五ヘクタールに農業開発セン

ター、通称「農民塾」を設置し、他の日

本の組織が、「一人のワーカー」を派遣し、地元の青年と共に、農業改善を目指し、農業に励んでいる。

その農民塾を中心とした、周りの村や学校に、その地域の人々と共に公衆衛生部門を担当しているのが私達、京都のワーカーキャンプのメンバーということになる。早い話が、トイレ普及運動ということにならうか。今年は、この高校、来年はあの中学という様に、地元の人々と共にトイレ作りに汗を流すのである。

ネバールの様々な病気の原因は、公衆

## 社会と共に歩む人物記⑤ ネバールワーク キャンプに参加して



中島 淳 (西陣教会)

衛生の悪さ、特に農村社会におけるトイレの習慣のないことに起因していると言われる。また同時に、人糞を下肥として利用してもらえたというのも、狙いの一つであるが、大自然の中での生活、又、その中の自然農法を営んでいる習慣の改善を促すのは決して容易なことではない。善意の押売りであつたり、それに基づいた自己満足ではないのである。

地元のニードに協力する、いや、協力させていただくという姿勢が必要になつてゐる。何故なら、私達が学ぶ事の方が多いのに気付かされてしまうからである。

### ♦アジアの人々との触れ合いから

例えばネバールの人々は、ジャガイモはいちいち、皮をむいて料理はしない。

皮をむく必要がないからである。水で洗つて煮炊きする。玉ねぎにしても水洗い

だけ。つまり、化学肥料、農薬等、使用しない為に安全なのである。時折、いたるところにトマトは、小さいが、飛びきりうまい。量産を目指した改善は必要らしいがとにかく、おいしく、安心して食べられる。

どこの四季を問わず、石油づけの高い産物とは違う。

また、一年の九ヶ月、乾期で雨のほとんど降らない気候をもつネバールでは水は生命の源であり、それは共有するものであることが原則である。

一年を通して、水を得ることのできる水場は、周りの人々、村々のコミュニケーションの場であり。交わりの場所である。井戸端会議は人の糸を作つてゆく。

◆今年は早く夏がいつしまった感じで虫たちも早々とお出まし。夜毎虫たちがにぎやかに、広大無辺なる天地を賛美してか。自然の流れの中で、今ある生命を精一杯生き。この秋の夜長のひとときを、樂しみ、奏でているのであろうか。自然の保護が叫ばれている中で、小さな生き物たちのことを考えずにはいられない。

私達が、いつの間にか忘れていくつあるものを、ネバールという鏡は教えてくれる。開発、近代化とは何であろうか。私達は、アジアに対して、過去の歴史を反省し、現在の経済侵略を批判するだけではなく、積極的にアジアに帰ることが必要ではないだろうか。

(写真はネバールの親子)



時報が対話  
の手段なら  
者も読む者  
は「互いに  
も、投稿者  
心を開けあ  
も編集者も」

◆深き淵より。誰に叫びますか?

社会に向つて? 人間に向つて? それとも神に向つて? 「あなたに向つて」あなたがいつも神様である様に、いとしきつたままである様に。そうすれば、きっと心は明るく、広がるでしょうに。信仰弱き者よ、私はいつもまわりの壁ばかり見てゐるので。上を向きた。(M.T.)

◆時報編集会議中に、突然田中司教の訪問! 内外ともにお忙しい方からのお話を聞いているうちに、新しいニュース種は山積み! ニュース整理にてんやわんやのこちら編集部は、益々紙の虫になる感じ。動いてることは生きているしる。でも「忙殺」の字を使わぬよう

キリストと共に生きてゆきたい。(Y)

◆今年は早く夏がいつしまった感じで虫たちも早々とお出まし。夜毎虫たちが

にぎやかに、広大無辺なる天地を賛美してか。自然の流れの中で、今ある生命を

精一杯生き。この秋の夜長のひとときを、

樂しみ、奏でているのであろうか。自然

の保護が叫ばれている中で、小さな生き

物たちのことを考えずにはいられない。

（K）

本紙を福音宣教に役立たせるため、ご近所、お友だちにもお見せ下さい。